倉敷アイビースクエア

伝統工芸で岡山市長賞受賞

日本工芸会が文化庁等と主催する「第67回日本伝統工芸中国展」において、倉敷アイビースクエアの陶芸教室にて指導員をしている易（えき）みのりさんの作品「鉄釉線文組鉢（てつゆうせんもんくみばち）」が岡山市長賞を受賞しました。作品は5月から6月にかけて岡山県と鳥取県の会場で展示されました。

今回審査員を務められたパナソニック汐留美術館学芸員の川北裕子さんの講評とともに易さん自身のコメントを紹介します。

▲ 岡山市長賞受賞作品
（写真：日本工芸会中国支部提供）

【川北さんの講評】

均整のとれた白土の器胎に、質感の異なる天目釉とマット釉を組み合わせて黒を表象する。木葉天目の研究から出発し、種々の鉄釉の実験を重ねてきた作者は、施釉した黒に内在する力強さやニュアンスを深く自覚しながら、等身大の表現へと着地させた。

緩急つけて放射状に広がる線模様は、筆で一つ一つ丹念に描き出され、心地よい緊張感に満ちる。現代生活で好まれるミニマルな美を、さらに温度の通った豊かな意匠へと昇華させた。

【易さんのコメント】

2019年12月号ドウシンに掲載※していただき5年が経ちます。その間、新型コロナウイルスの出現があり、作品を出品して入選をしても展示は中止されることや、出品しようと思い作品を制作していた公募展自体が中止になることもありました。

また、プライベートでも父の死や同居している祖母の介護も重なり、制作へのモチベーションが下がり続けていました。

そんなこともあり「今年は出品するのはやめようかな」とも考えましたが、毎年の習慣を途切れさせることに納得できず、土壇場で制作することを決め、締め切り間近での完成となりました。

今回は凛としていてスッキリ感のある作品を目指して制作しました。去年の伝統工芸中国展で出品した壺の模様と色のバランスが自分の中では気に入っていたので、その方向性は変えずに形は組鉢で表現しました。焼き上がった作品を見た時にスッキリし過ぎて物足りないような感じがして、『今回は入選も難しいかもしれない』と思っていたところ、思いがけず岡山市長賞をいただきとても驚きました。

仕事と生活と制作の両立は大変なこともありますが、これからも制作活動を細々と頑張っていきたいと思っています。

▲ 易さん

クラボウグループの皆さんも倉敷へお越しの際は、ぜひ陶芸体験をしてみてください。

※国内最大規模の工芸公募展「日本伝統工芸展」に初入賞したことを紹介

（カルチャー事業部　長原　かなえ　記）

倉敷アイビースクエア

愛美工房
陶芸教室

おしらせ

倉敷アイビースクエアでは期間限定で倉敷のデニムメーカーによるイベントを開催中！